

「受賞者の声」

テーマ「職業訓練における体験的職場実習の有効性の一考察」

副題「体験的職場実習の効果的な実施」

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター 犬塚 康子

この度は、職業能力開発論文コンクールにおいて、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございました。また、本論文を執筆するにあたり多大なご支援を頂いた関係各位に厚くお礼申し上げます。

本論文は主に就労経験のない訓練生に対し、実施している体験的職場実習の有効性について事例を通して考察したものになります。

職業訓練を担当して思うことは、就労をイメージすることが苦手な訓練生や自分の障害に関する理解が不十分な訓練生に対して、課題点や自己理解の不足について、これから必要なこと等を、どんなに平易な言葉で説明したとしても十分に理解が深まらない、理解してもらえないことがある、ということです。訓練生に未経験なものをわかってもらう、理解ができないものを理解してもらうことは、とても大変なことです。そのため、その訓練生自身が『どうすれば気づくのか』をありとあらゆる視点、柔軟な発想、訓練生の日々の様子から考えることが大切になってくると思います。

体験的職場実習では訓練生の『気づき』を得るうえでの一つの手段としてとても有効な手法だと思えます。この論文を見てくださった皆様にとって少しでも参考になれば幸いです。

賞を頂くことができた事は、言うまでもなく私一人の力によるものではありません。就職という最終目標と一緒に一途に一生懸命に取り組んできた訓練生の皆さんと体験的職場実習を快く受けていただいた事業所のおかげと思えます。また、常に傍らで私を支えてくれた同僚や困った時に、より良い結果に導いてくださった上司のおかげであると思えます。

これからも訓練生自身が得意なこと・苦手なこと、障害特性等の気づきを経て自己理解を深め、真に合った事業所に就職でき、そこで末永く働き続けられるように、訓練生と事業所双方がより良い関係を築く手段や方法を見つけられたらと思えます。

今後とも引き続き訓練生、事業所に満足していただけるような支援を心がけていきたいと思っています。